

かくして終に、婆婆の縁にしがみつく
力が私のからだからなくなつて「婆婆ノ
縁ツキテ、力ナクシテオワルトキニ」そ
のときにようやつと婆婆への未練から手
がはなれて、如来さまお待ち受けのお淨
土へお参りさせていただく。その手筈は
、如来さまがちゃんと整えてくださつて
いる。

婆婆にいつまでもしがみついていたい
、「イソギ淨土ヘマイリタキ心ノナキ者
ヲ、コトニ憐ミ」くださつて仕立てあげ
られたお淨土へ。

「別にそんなことせんでも、如来さまは、いつでもお前のすぐそばについていてくださるではないか」といわれるは、なるほどその通りかもしれません。それはやっぱり他人ごと。

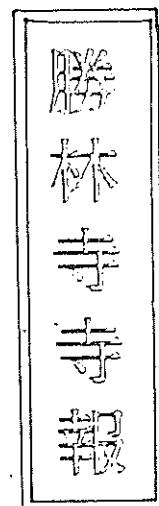
「お淨土」は十方仏国どこにでもあるのだけれど、あの愚痴な韋提希にお釈迦さまは、西のほうを指さして、あのお淨土を願えよとおすすめくださったと申します。

それでやっぱり、みんなに迷惑はかけます。

御馳走たべる夢を見る。あのことを思
い出しては腹が立つ。この子おいては死
に切れぬとしがみつく。
——マコトニヨクヨク煩惱ノ興盛こう
しよう 二候ウコソ

あのことが気にかかる、このことの思
いが断ち切れない。
しょせん、全てをすてて別れて行かね
ばならぬことは知つてはいるけれども、
五〇年六〇年、この世をくらすなかで関
わりをもつたいわゆる「娑婆の縁」とい
うものは、この期に及んでも捨て切
れない。

「ナゴリ惜シク思エドモ……」
「ばに思う」
「歎異鈔のおことば」



そこには、とうさんかあさんもろもろの上善人と、如来のいのちを俱に生き、共に相い会える尽十方無碍光の無碍自在な世界がある。

そこがお淨土なのですね。

これが私達二人の最後に話し合った事でした。

葬儀
西池 瞭子様
勝林寺坊守
五月二十五日

超世ノ悲願 聞キシヨリ
ワレラハ生死ノ 凡夫カワ
有漏ノ穢身ハ カワラネド
ココロハ淨土ニ アソブナリ
死んだ里の母がよくとなえていたこの
ご和讃そのままのしあわせに出会わせて
いただきました。

本堂の西側に、仏婦の方々が総会のた
めに展示をしてくださっていた作品展も
、そのあと見せていただきました。

如来さまだけではなしに、こうしてご
門徒の方々のお莊嚴のなかにいさせてい
ただく身のしあわせを、煩惱だらけのこ
の私が、心は淨土とよろこばせていただ
いた一時でございました。

(七月八日最後のテレホン法話)

本堂の下陣の真ん中に寝床のまますえ
でもらいましたら、次男が「それじゃあ
みんなでお正信偈さまをあげよう」と。
本当に久々に、子供や嫁や孫にとりか
こまれて、お正信偈さまのなかで如来さ
まを真向いにおがませていただきました。
なみだがでるはずなのに、そうではな
くて、もつたいい匂体ない、まだ息の
あるうちから如来さまと真向いで。それ
も親子・孫・嫁姑もろともに。

八月のこよみ

坊守七日速夜
(夜八時)

出石組坊守代主表

真覚寺坊守さまの印中辞

私事ではありますけれど、もう三十年数年も昔、真覚寺に嫁に来て、家庭的にあまり幸せでなかった私に「里だと思って優しく暖かく励ましてくださった先代の老院さまご夫婦とともに、ほんとうの姉のようにいつも暖かく導いてくださったあなたと、とうとう「永の別れ」となつてしましました。

古いはなしですが、三〇年も昔、どちらかの結婚記念日ということで正福寺さんご夫婦と一緒にお寺へお参りさせていたいたのが、忘れえぬ思い出として今も私の胸にあります。

あなたはほんとうに立派な方でした。毎年の出石組坊守主催の念佛奉仕団や、その他の仏事活動には、文字とおりい出されたり、時には甘えたりしてついてふと思いつかんできたりいたします。

私が坊守は、あなたのその行動力に励まされたり、時には甘えたりしてついていったように思います。あなたは色白で肌のきれいなお顔に、いつもほほえみを浮かべて、回りの人たちを明るくさせ、いつのまにか一定の方に向に引つ張つて行く力のある方でした。そしてなにびとも愛されるひとでした。その証拠にあなたの病室はいつも行ってみてもお花畑のようでしたね。

あなたが、すっかり小さくなり、体中にクダを刺されたあの痛々しいそのお苦しみのなかにあっても、つねに笑顔を忘れぬひとでした。

ああ、もう一度、トッププリと首までお風呂につかりたい。わたしだけがなんでもこんな。よほど業なのだろうかなどと歎かれたときには、私には言葉も

なく、ただ涙があふれるばかりであります。

そんな時には、元気なころの「思い出し」を、お互いにおもしろおかしく話し合い、「こんなバカばっかしいっていい年も昔、真覚寺に嫁に来て、家庭的にあまり幸せでなかった私に「里だと思って優しく暖かく励ましてくださった先代の老院さまご夫婦とともに、ほんとうの姉のようにいつも暖かく導いてくださったあなたと、とうとう「永の別れ」となつてしましました。

古いはなしですが、三〇年も昔、どちらかの結婚記念日ということで正福寺さんご夫婦と一緒にお寺へお参りさせていたいたのが、忘れえぬ思い出として今も私の胸にあります。

あなたはほんとうに立派な方でした。毎年の出石組坊守主催の念佛奉仕団や、その他の仏事活動には、文字とおりい出されたり、時には甘えたりしてついてふと思いつかんできたりいたします。

私が坊守は、あなたのその行動力に励まされたり、時には甘えたりしてついていたように思います。あなたは色白で肌のきれいなお顔に、いつもほほえみを浮かべて、回りの人たちを明るくさせ、いつのまにか一定の方に向に引つ張つて行く力のある方でした。そしてなにびとも愛されるひとでした。その証拠にあなたの病室はいつも行ってみてもお花畑のようでしたね。

あなたが、すっかり小さくなり、体中にクダを刺されたあの痛々しいそのお苦しみのなかにあっても、つねに笑顔を忘れぬひとでした。

ああ、もう一度、トッププリと首まで

勝林寺門徒紹介

龜井幸男さまの印中辞

「露の世は 露の世ながら さりなが

まことその通りでござります。

人生無常の理は、つねづねお聞かせいたまき十二分に承知しているはずでした。

「露の世は 露の世ながら さりなが

ら」 さりながらやはり、坊守さまの今

度のことはなんとも悔やまれてなりませ

られたのも、今はもう帰らぬゆめとなつ

ました。

ことし還暦のお祝いにと、ご姉妹の方たちにプレゼントされた立派な草履をはいて、歩いてうちへかえりたい言つておられたのも、今はもう帰らぬゆめとなつ

ました。

昨夜のお通夜で西宗寺のご院家さまがおつしゃつたように、本当にあなたは、あなたの病にも負けず、最後まで明るく、念佛者のすがたを身を以て私どもに見せてくださいました。身業説法とはまさにこのことではないでしょうか。

私達はあのお姿をキッカリと心に記さんで、あなたのあとをもうすこしだけ生きさせていただきます。

それにもしても、昨日の朝、このお寺のお内仏さまの前のおひつぎの中の、あなたのお顔の相の美しかったこと!

私は今まであんな自然な一いまにもパツト美しい大きな目を見開いて明るくほほ笑まれそう、そして「郁子さん」と呼ばれそうな、とにかくこんなに柔軟なひつぎの中の方のお顔は見たことはありません。ああすでにあなたは安養界に、はちすと咲き出した人でした。

ああ、思い出すまさに、くだらぬ愚痴

まされたり、時には甘えたりしてついていたように思います。

あなたは色白で肌のきれいなお顔に、いつもほほえみを浮かべて、回りの人たちを明るくさせ、いつのまにか一定の方に向に引つ張つて行く力のある方でした。そしてなにびとも愛されるひとでした。その証拠にあなたの病室はいつも行ってみてもお花畑のようでしたね。

あなたが、すっかり小さくなり、体中にクダを刺されたあの痛々しいそのお苦しみのなかにあっても、つねに笑顔を忘れぬひとでした。

ああ、もう一度、トッププリと首まで

お風呂につかりたい。わたしだけがなんでもこんな。よほど業なのだろうかなどと歎かれたときには、私には言葉も

められ、広く地域社会に大きな足跡をのこされました。

先代老ご住職ご夫妻を長くみとつて孝養の範を示され、立派なご子息を育てあげて賢母の誉れ高く、かつまた如来お慈悲の権化となつて門徒信徒を慈しんでくださいました。

聞けば、臨終最後のお言葉は「早く、早く」ということであつたと聞きます。

坊守さまが身を以てのこされたご遺訓をすべてし終えて、いまはもう早くお淨土へ帰りたい、お寺に帰つて休みたいといふ気持ちであつたに違ひありません。

今は私達門徒一同このすばらしい坊守さまのご往生を「往生めでたし」とあおぎ慕うばかりでござります。

坊守さまが身を以てのこされたご遺訓を、門徒一同今はお念佛のなかに懇んで祈るような気持ちで坊守さまのお帰りをお待ちしておりましたのに。

坊守さま自身たつて、私達がお見舞いに上がるたびに「早く帰りたい、寺へ帰りたい」としょっちゅう言つておられました。

しかし今はそれらも全て帰らぬ繰り言となつてしましました。

島根県石見の名刹瑞泉寺にお生まれになりました。

坊守西池瞭子さまは、昭和六年一月の生まれで、今年ちょうど還暦でございました。

今は私達門徒一同このすばらしい坊守さまのご往生を「往生めでたし」とあおぎ慕うばかりでござります。

坊守さまが身を以てのこされたご遺訓を、門徒一同今はお念佛のなかに懇んで祈るような気持ちで坊守さまのお帰りをお待ちしておりましたのに。

坊守さま、御苦勞様でした。ありがとうございました。南無阿弥陀仏。

美しい大輪のぼたんのはなが勝林寺の庭に咲き出したようでありました。

ここに豊かな明るい性格のそのうえに、さすが石見門徒の寺で培われたおみのりの薰りは、すばらしいお人柄となつて、それ以後門徒教化のただなかを咲きつけ香りづけてくださいました。また、出石組仏教婦人会長なども長くつと

いた。

1991年8月1日

0796-52-3083